

デジタル・ナレッジ西日本支社 開設記念式典報告書

2008年8月

目 次

1. 概要.....	3
2. 記念セミナー報告.....	4
3. 記念パーティー報告.....	9

1. 概要

1995年の設立以来、『日本で初めてのeラーニング技術専門企業』として、企業や学校、大学など200を超える機関に対し、eラーニングシステムやコンテンツ制作、コンサルティングを提供してきたデジタル・ナレッジが、西日本におけるeラーニング構築需要の増大に伴い、西日本支社を開設し2008年9月1日より業務を開始することとなった。

西日本支社開設に先立ち、2008年8月29日に開催された開設記念式典の様子を報告する。

記念式典は以下のとおり開催された。

- (1)日 時 : 2008年8月29日(金) 14:00~19:00
- (2)会 場 : 大阪新阪急ホテル 花の間・紫の間
- (3)内 容 : eラーニングの最新動向 大阪から世界へ ~日本文化の発信~
- 14:00 セミナー開始
- 主催者挨拶 株式会社デジタル・ナレッジ
執行役員・西日本支社長 小林 建太郎
- 来賓ご挨拶 学校法人大手前学園
理事長 福井 有
- 14:10 eラーニングの最新動向 株式会社デジタル・ナレッジ
代表取締役 はが 弘明
- 14:30 西日本支社開設のご挨拶 小林 建太郎(株式会社デジタル・ナレッジ)
- 14:50 休憩
- 15:00 “現代に生かす日本の智慧 身体で学ぶ発想術” ウィリアム・リード(William Reed)
- 16:30 セミナー終了
- 17:00 パーティ開始
- 主催者挨拶 小林 建太郎(株式会社デジタル・ナレッジ)
- 来賓ご挨拶 特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム
会長 小松 秀園
- 来賓ご挨拶 学校法人大阪創都学園
理事長 吉原 滉一
- 来賓ご挨拶 マイクロソフト株式会社
業務執行役員
文教営業本部長兼ビジネス推進本部長 反町浩一郎
- 乾杯 ウィリアム・リード(William Reed)
- 19:00 パーティ終了

2. 記念セミナー報告

当日は、100名を超える出席者がセミナー開始前から集まり、盛大に開催された。

午後2時より、花の間にてセミナーが開催され、デジタル・ナレッジ小林建太郎氏の西日本支社開設ならびに西日本支社長就任の挨拶で始まった。



図1 記念式典会場受付



図2 記念セミナー会場内

来賓の挨拶として、eラーニングを強力に推進している学校法人大手前学園(大手前大学)理事長の福井有氏が高等教育機関におけるeラーニングの現状について講演され「日本の大学でeラーニングを利用しているのは約700校の内の16.5%とまだまだ低いため、さらにデジタル・ナレッジと力を合わせてeラーニングの開発・推進を行ない、より良い教育を広めていきたい」と、力強い応援メッセージが送られた。



図3 来賓挨拶 福井有氏(学校法人大手前学園 理事長)

続いて、デジタル・ナレッジ代表取締役のはが弘明氏より、eラーニングの持つ可能性について講演が行われた。

始めに『教育』とは『育つ喜び』であり、その『育つ喜び』を全ての人へ届けたいという信念のもとにデジタル・ナレッジは活動を行っており、その実現のために場所や時間の制約なしに多くの人々が学習できるツールであるICTを活用したeラーニングを運用していることについて述べ、デジタル・ナレッジのeラーニング導入事例として、八洲学園大学が紹介された。

八洲学園大学は、2004年4月に開学したeラーニングのみでも卒業できる大学であり、講義や教員の指導を受けるだけでなく学びのプロセスに焦点をあて、作品発表の場やコミュニケーションの場を設けているまさにウェブ上の学校である。この大学では学生がどのような講義を受け、どのようなコミュニティに入り、どのような発言をし、どのような友人をつくっているかといった学習情報を蓄積(データベース化)しているため、そこからマイニングを行ない、経営判断の指標を得ることで、「経営判断が容易にできる」とし、さらに講義はライブ配信されており、それらはオンデマンドで残っているため、それを用いて企業と利用契約を結ぶことで、「教育資源を経営ツールに活かすことができる」と説明された。企業は蓄積されている講義の中から、生産や販売、財務といった企業活動全般に必要なものを学び、知識や技能の習得が可能となり、その上、ある講義の中の5分間だけといった部分的な利用もできるため効率的かつ低コストで社員の企業外研修が実現することになるということである。(八洲学園大学の詳細は、2008年3月発行の「八洲学園大学調査報告書」(eラーニング戦略研究所発行)を参照。)

また、その他にデジタル・ナレッジが取り組んでいる、学校や企業のニーズに合わせた教材づくりやeラーニングシステムの構築、改良、Hosting、学生・教員支援を行なっていることなどが紹介され、今後の展開戦略としてネット上での学校説明会を行ない、学生の増加を図ることや、アンテナショップやサテライト校の設置により教育ニーズの調査や地域に根ざした学校経営を目指すことのできるeラーニングを提供することが発表された。



図4 講演 はが弘明氏(デジタル・ナレッジ 代表取締役)

次に、デジタル・ナレッジ西日本支社長の小林建太郎氏より、西日本支社の概要について講演が行われた。小林氏の自己紹介の後、西日本支社開設にあたって e ラーニングユーザー同士の交流を深めていくことや、東京でのセミナーをリアルタイムで大阪へ配信していくこと、そして、これから大阪を拠点に中国・四国地方、九州・沖縄、さらには世界へ e ラーニングと日本文化を広めていきたいといった今後の展望について講演された。



図 5 講演 小林建太郎氏(デジタル・ナレッジ 西日本支社長)

10分間の休憩後、日本語・日本文化に造詣が深く企業家・文筆家として活躍されているウィリアム・リード氏より『身体で学ぶ発想術』というテーマで講演が行われた。

リード氏は、発想というのは難しいものではなく、目の前にあるものに対して違った見方ができるかどうかということであり、「発想力とは視点を変える力である」と提案された。また、視点を変えることの例として、セミナー出席者全員に目を閉じたまま隣に座っている人と席を替わる実験が行われた。この実験に苦労している姿に対し、「多くの(目が見える)人にとっては単純な動作だけれど、それが大変な人もいます」と述べられ、自身の価値観に捕らわれないことが大切なことであると指摘された。

続いて、視点を変えることで少ない資源(時間・エネルギー・想像力・知識)でも成功できるということを、型にはまらないサービスの提供で新規参入ながらもアメリカのウェディングビジネス業界で成功を収めた企業の話や、(既存の)物理学の法則を用いて変わったアプローチで講義を行ない、人気を博しているマサチューセッツ工科大学の教授の話などの実例を挙げながら解説された。

このような事例を示しながら、面白そうな事をしている所には優秀な人間が興味を持ってやってくるものであり、「優れたコンテンツは優れた人材を引き寄せる」ものであることを証明した。

リード氏自身の発想や思考を整理するための「考具」として利用している「マンダラ・チャート」の紹介後、日本の伝統的歩行法であるナンバ歩きの指導をセミナー出席者へ行った。

最後に、「ノーベル賞受賞者の 95%は趣味を持っており、その趣味の 99%は身体を動かす趣味である」という調査データが紹介され、「身体を動かすことで発想が生まれ、そうした発想を整理することで優れたコンテンツが生まれる。そして、優れたコンテンツには優れた人材が集まる」と講演し記念セミナーが終了した。



図 6 講演 ウィリアム・リード氏

(講演者プロフィール)

「はが 弘明」

株式会社デジタル・ナレッジ 代表取締役

—略歴—

1966年3月20日生まれ。魚座、O型。東京都府中市出身、横浜市在住。工学院大学電子工学科卒業、富士電機株式会社入社、富士通との合弁会社(FFC)にて基本ソフトウェア開発に従事。1995年12月にデジタル・ナレッジを設立。特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム(eLC)執行副委員長。

「小林 建太郎」

株式会社デジタル・ナレッジ 執行役員・西日本支社長

—略歴—

1971年生まれ。2000年12月にデジタル・ナレッジへ入社。2005年4月より特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム(eLC)執行役員・広報委員会委員長を兼任。2007年4月にeラーニング戦略研究所を設立、所長に就任。2008年2月にデジタル・エデュケーショナル・サポートを設立、マネージャに就任。2008年3月より情報コミュニケーション学会評議員に就任。2008年

9月よりデジタル・ナレッジ西日本支社長に就任。

—著書・論文—

- 2004年3月 eラーニング導入ガイド(2,100円)共著(東京電機大学出版局)
- 2006年7月 eラーニング白書(3,675円)共同編集(東京電機大学出版局)
- 2006年8月 高等教育におけるeラーニング導入推進のための組織設計
共著論文(教育システム情報学会)
- 2007年2月 秘匿保持チャット機能を用いたコミュニケーション e-ラーニング
共著論文(情報コミュニケーション学会)
- 2007年4月 eラーニング活用ガイド(1,995円)監修(東京電機大学出版局)
- 2007年8月 eラーニング白書(3,990円)共同編集(東京電機大学出版局)
- 2008年3月 eラーニングの実態調査と各教育団体の戦略分析
論文(情報コミュニケーション学会)
- 2008年8月 eラーニング白書(3,360円)共同編集(東京電機大学出版局)

「ウィリアム・リード(William Reed)」

—略歴—

1952年米国生まれ。日本を活動拠点に世界へ日本文化を発信して活躍する起業家・文筆家。世界に4人しかいないゲリラ・マーケティングのマスタートレーナー。合気道七段。著書『お客の心に飛び込め 実践ゲリラ・マーケティング入門』『ダ・ヴィンチ7つの法則』など多数。早稲田大学大隈塾ゲスト講師、桐朋学園非常勤講師、マンダラ・チャート学会理事。

3. 記念パーティ報告

会場を紫の間に移し、午後 5 時より記念パーティが開催された。

始めに、来賓の挨拶が行われ、特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム会長の小松秀圀氏より、「日本での e ラーニングの活用率はアメリカなどの先進国と比べ、5 分の 1 と低いため、もっと e ラーニングの底力を引き出し、将来的に幅広い e ラーニングの活用を目指しましょう」との応援メッセージが送られた。



図 7 来賓挨拶 小松秀圀氏(特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム 会長)

次に、学校法人大阪創都学園理事長の吉原滉一氏より、「e ラーニングは教育の地域格差をカバーする手段となるため、これからも積極的に活用の促進に取り組んでほしい、デジタル・ナレッジはどんどん大阪を元気にしてください」との応援メッセージが送られた。



図 8 来賓挨拶 吉原滉一氏(学校法人大阪創都学園 理事長)

最後に、マイクロソフト株式会社業務執行役員・文教営業本部長兼ビジネス推進本部長の反町浩一郎氏は、マイクロソフト社の前 CEO であったビル・ゲイツ氏の「これからの IT のトレンドはソフトウェア+サービスである」との考えを引用し、「今後もデジタル・ナレッジとマイクロソフトの両社で、互いに顧客のニーズに応えたサービスの提供を頑張りましょう」との応援メッセージが送られた。



図 9 来賓挨拶 反町浩一郎氏(マイクロソフト株式会社業務執行役員
文教営業本部長兼ビジネス推進本部長)

来賓の挨拶に続き、ウィリアム・リード氏による乾杯が行われ、大阪新阪急ホテルのすばらしい食事が提供された。



図 10 パーティ会場

パーティの終わりにデジタル・ナレッジがスタッフを紹介し、はが氏から、「西日本支社は少人数からのスタートではございますが、本社と連携をとり拡大を目指していく所存ですので皆様のご支援ご鞭撻をこれからも末永くよろしくお願いいたします」と挨拶され、午後7時に閉会した。



図 11 記念撮影(左から、はが氏、リード氏、小林氏)

(文:大手前大学 メディア・芸術学部 新川 友規)

● デジタル・ナレッジ西日本支社開設記念式典運営プロジェクト ●

新川 友規 (文)
小林 建太郎 (監修)

デジタル・ナレッジ西日本支社開設記念式典報告書

2008年8月発行

発行: eラーニング戦略研究所

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-26 共同飯田橋ビル 6F

(株式会社デジタル・ナレッジ内)

Tel.03-5206-5811 / Fax.03-5206-5812

<http://study.jp/esri/>

(禁無断転載・転用・複写)

eラーニング戦略研究所
eLearning Strategy Research Institute